

市長と話そう会（市内の中高生）
日 時：令和7年8月8日（木）
17:30～19:00
場 所：武雄市役所3階会議室
参加者：武雄市内の中高生及び
保護者5名



市民のみなさまと市長が直接語り合う「市長と話そう会」第41回は、「市内の中高生」のみなさまと、武雄市文化会館大ホールのことや武雄アジア大学について幅広く意見交換しました。以下抜粋して掲載します。

○「武雄市文化会館大ホール」について

（参加者）

- ・武雄市文化会館と武雄アジア大学についての疑問点や、こうしてほしいという点が少しあります。また、大人の意見だけでなく、次の世代を生きていく学生も、私たちの意見も聞いてほしい、疑問点を解決してほしいと思い、この市長と話そう会に参加させていただきました。アジア大学と、武雄市文化会館についての質疑応答と説明をこの時間で行いたいと思っています。本日はよろしくお願いします。
- ・一番初めに、改修工事ということでお話が進んでいたのですが、それが取り壊しになった理由と、その場合のメリットとデメリットを聞かせてください。

（市長）

- ・ちなみに今日は大ホールとアジア大学っていう話はありませんでしたが、それ以外でもぜひ空いた時間で質問とかしてくれたらと思います。その前に大ホールの問題にみんなが興味を持った、関心を持ったきっかけがあったんですか。

（参加者）

- ・私たちは、青陵中学校や武雄高校でも、合唱コンクールっていうのをやっていて、そういった発表会や探究発表会を文化会館でやっているのと、武雄青陵中学と武雄高校の吹奏楽部の合同定期演奏会。それと、私が演劇部に所属しているんですけど、演劇部の高校演劇祭を毎年、武雄市の文化会館に習いに行っているんで、それから、改修工事に入るときって、いろんな行事が中止になったりとか、あとは体育館で行ったりとかしているんで、大ホールはこの後どうなるんだろうっていう疑問点から調べるようになりました。

（市長）

- ・確かに定期演奏会、そしてこの前の文化発表会も体育館でありましたよね。見に行きました。文化会館ができたのは昭和50年です。もうそこから約50年経っていて老朽化とか、あるいは地震が起きた時に対応ができないというような状況になってて、じゃあこれからどうしようかっていうのを考えました。そういう中で、小ホールとかミーティングホールとか、あの

あたりを解体して、そこに新しい文化拠点を作ると。あとセットで大ホールについては、そういう地震とかにも対応できるように改修をして、そのまま残すという方針を立てたわけですね。その方針でずっと進めてきました。そういう中で、昨年の冬にみんなご存知の通り、物価が非常に上がっていて、何でも高くなっているという時に、大ホールを改修するというところに想像以上のお金がかかるということが分かりました。50年前に建てたホールなので、地震とかの対応ができたとしても、またそれを50年も使えるわけでもない。もうちょっと短い期間に想定以上のお金がかかるということがわかったので、昨年末、今の方針を、要は新しい文化拠点と大ホールを残すっていうのを一旦ちょっと立ち止まって考えましょう。その中では解体とかじゃないんですよ。一旦立ち止まって考えましょう。そして皆さんの意見を聞いて、それで今後方針を決めていきたいと思いますというのを武雄市議会で私が表明をしました。その後、今年に入って1月からいろんな団体の方に意見を聞きました。それは文化に関わっている団体。あとは関わっていない市民の方の市民会議というものだったり、そういうものをいろんな意見を1月からずっと聞いてきたんですね。聞いてきた中で、確かにいろんな意見がありました。大きく言うと2つ、私は民意と呼んでるんですけども、市民の皆さんの意見があるっていうふうに思いました。一つは、やっぱりこれから改修して残すにしても、ずっと50年、60年使えるわけではないところに、とても大きなお金を投入するっていうのは、そこはとても負担になると。将来に対してお金の面で負担を残すことになるということなんで、解体をした方がいいんじゃないかっていうような意見。一方で、やっぱり文化団体の方を中心に、やっぱり文化の振興は大事だと、文化は大事で、ぜひやっぱりこれは残すべきだっていう意見のこの2つが大きくあったんですね。で、じゃあどうしようということで、私もいろいろ考えました。で、考えて、将来に対して、お金の面、財政面でも負担を残すべきではないという意見。いやいや、文化はやっぱり大事だという意見。この2つをどうしようかというふうに考えたときに、一つの方向性として、大ホールは解体をするけれども、例えばケーブルワンスポーツパークとか、北方の文化ホール、すでにあるものをもっと質を上げて、音響を良くしたり、あるいはライブができるようにしたりというふうに、そういった質を上げて、そして文化の灯は止めないという、そういうふうの一つ案を決めて出したんですね。つまり将来の負担はできるだけ減らしながらも、文化の灯を消さない。その考で、今大ホールをなくす代わりに今あるものをもっと良くしていくという案を出しました。出した後、パブリックコメントと言って、市民の皆さんからいろんな意見をもらう機会でも、たくさん今、意見をもらいましたし、市役所や市議会でもいろんな意見をもらいました。それはおかしいんじゃないか、あるいはそれはいいんじゃないかとか、いろんな意見をもらいました。で、今それを受けて、今後どういう風にしていくかっていうのを今考えているところです。なので、よく言われるのは、大ホールはもう解体に決まったんでしょっていう風に言われるんですけども、そうじゃなくて、一つの案を示して、そして今、意見をたくさんもらっている。そして、じゃあどうしようかっていうのを今中で考えているところです。だから、まだ方針決定っていう段階ではないですね。これから、その案を受け、また市民の皆さんに提示することになると思います。やっぱりそうやって、とにかく勝手に、例えばもうお金ないからもう壊せばいいではやっぱり良くならないと思うんですよ。これまでずっとやっぱり文化、それこそ演劇もそう、音楽もそう、いろんなやっぱりこう文化っ

て創る人がいて、初めて文化が生まれる。文化の作り手は市民なんですよ。創りたいという文化をやりたい市民の皆さんの声をどういうふうにしていくかっていうのはとても大事だと思っています。なので、今いろんな意見をもらってますので、もう 1 回今考えているという状況です。

(参加者)

- ・考えとか話し合いついていうのは、いつまでに決めるとかいう期限があるんでしょうか。

(市長)

- ・期限はないです。期限はないですけども、今は休止の期間がありますよね。これをいたずらにダラダラと、いつまでも決めないということは、それは良くないと思ってます。なので今いろんな意見をパブリックコメントでもたくさんの意見をもらって、それを踏まえてどうしようかっていうのを、そこは市役所の中でも必死に今考えているところです。いつ出しますって今言えないんですけども、でも先延ばしをして、今後、じゃあ私たちとしてこう考えているっていうのをもう一回出すのを、先延ばしをするつもりはないです。

(参加者)

- ・壊して質を上げるとおっしゃったが、北方の文化ホールと山内の改善センターは、どうしてもアクセスと面積というものがある。文化会館のあの音響と設備というのは、あの面積があるから成り立っているものであって、どうしても北方や山内では、質を上げるにしても限界があると思うんですよね。今あるあの大きな文化会館の大ホールを、そういう、変わりがあるからという理由で壊されるっていうのは、文化的資産の損失のように感じる。なので、解体するにしても、未来への投資という、未来への負担を減らすという意味では、正しいのかもしれないけど、同じ規模のものを作れる目安を立ててからというのを、自分の意見として持っています。

(市長)

- ・私ももともと合唱をやってたので、どちらかという文化系の人間です。大ホールでも合唱団と一緒に歌ったりとかして、とてもその良さというのは分かっています。そういう中で、今、大ホールをどれぐらい一年間で使っているか、稼働率と言いますけど。稼働率が 5 割から 4 割、そして今 3 割まで下がってきているんですね。どんどん今下がってきているんです。周辺を見ると、例えば佐賀は佐賀市文化会館、そしてアリーナが新しくできた。佐世保にはアルカスがあります。アルカスは 2000 席入るということで、非常に大きくていいホールなんですけれども、なかなかそれでも埋まらないと。今そういう状況があるっていうことはあると思います。じゃあこれからの時代に、1300 席の大ホールがあつて必要なのかっていうようなご意見も、もらったりしています。なので、そこはさっき言ったとおり、一つは、やっぱりどうやればそこをもっと使ってもらえるのか、稼働率をどう上げていくのか、今、人口が減っていて、周辺の佐世保とかも結構厳しいような状況で、今の 1300 のところをどうやっていくのかっていうところは課題だというふうに思っています。でもおっしゃるように、じゃあ解体をしました。一方で北方ホールを使う、さらに質を上げる。まさにそこは質を上げるには限界があるんじゃないかっていう話を私も直接音楽やってる方からも聞きましたし、そうやっても解体するにしても、それとセットでやっぱり市民の皆さんが納得できるような案を出すことが大事だと思っています。その案として、北方の文化ホールとケーブルワンスポ

ーツパークをもっと良くするという案を挙げたんですけれども、それに対してやっぱりそれでは無理だろうという意見も直接、私も文化団体の方とこうやって話をしている、ありましたので、だったらやっぱりどうなるにしても市民の皆さんが納得してもらえるようなセットの案っていうのを出していくのが確かに大事なというふうに思っています。

(参加者)

- ・武雄市の今の文化会館の魅力ってアクセスだと思う。今、北方の質を上げて、そこは北方駅から、その前の駅からも徒歩で 25 分ほどかかる。そういうところの充実というの求められると思う。

(市長)

- ・アクセスについては、今さっき言ったように、解体するっていうことは、まだ決まってない。どうなるかっていうのを、今もう 1 回、我々も考えているところっていうのが前提なんですけれども、その上で確かにアクセスの話も言われます。やっぱり北方は遠いんじゃないかっていう。車で行く分にはいいけれども、みんなが車を使えるわけでもない、そういったアクセスの面も確かに言われます。そういった時に、今度新しくできる文化拠点 300 人入れるホールができます。今 1300 だから、規模としては、それは小さくなるけれども、今度できる文化拠点のそのホールでも、いろんなことができるというふうに思っています。ただ、繰り返しですけど、大ホールをどうするかっていうところはまだ決まってません。やっぱり大きいホールはとても気持ち良くて、演奏する方も聞いている方も気持ちがいいんですけれども、大きいからこそそのデメリットというか、人が減っている中で、なかなか人が集まらない、となると興行も打てない、コンサートもなかなかできないという問題もあったりするので、そういう中で、さっき言った新しくできる拠点は 300 人のホールができるので、そこでもいろんなことは、全部がとは言わないですけれども、できるんじゃないのかなというふうには思っています。

(参加者)

- ・学校で私たちがやっている合唱コンクールとかっていうのは、300 人規模ではできないのではないかなと思います。

(市長)

- ・去年の合唱コンクールは体育館であったと思うんですけれども、こういったところが不便でしたか。

(参加者)

- ・まずステージの設置は自分たちでするところから始まった。私は 3 年で実行委員だったが、どうしても体育館だと響かない、空調が効かないなどの問題があって、どうしても文化会館で聞くのに比べたら、聞いているだけで、音楽的に設計されているわけではないので、耳障りに聞こえる部分があります。あと、そもそも人数というのがあって、中高で何百人という人が合同で発表会を行っていたりします。そういう発表が行われていたりするのは、本当に文化会館じゃないとできない経験ではありました。自分たちの学校で文化発表会や合唱コンクールをやるっていうのは、自分たちで作るっていう達成感があったのかもしれないんですけど、それよりも不便だよっていうのが上回ったような気がします。

(市長)

- ・結構冷静に見ているなと思ったのは、良かった部分と悪かった部分を言われたんで、とても冷静に判断をされているなというふうに思いました。確かにその学校の部分っていうのは、今年入って1月からのいろんな方に聞くっていう中でも、学校関係者の方にも聞いたんですよ。特にどうでしょうかっていうのは聞いていますけれども。今、改めてこうやって生で直接そういった声を聞いたので、それは今後、まさに今考えている、もう1回、どうしようかっていう方針を決めるときに、ぜひ今のお話は参考にしたいと思います。

(参加者)

- ・定期演奏会について、現状、鹿島の文化会館を使用させていただいているが、それはどのようなっていうのと、300人規模のホールを拠点とするならば、あと北方の450ぐらいの席の会場とするならば、そもそも吹奏楽の合奏を行う人数って、少なくともうちの学校は30人。多いと武雄高校生が入ったりするので、60人は超えるんですけど、それは正直、北方では入らないんですね。そういうアクセスの良い、使える、すごく良質な場所っていうのが、そう簡単かどうか、違う市でやる、町でやるっていうのは、どうかなっていうのを感じました。

(市長)

- ・鹿島のサクラスの定期演奏会は、私も見に行きました。最大800人入れるんですよ。800人入れるところで、正直、音響は良くないんですね。見た目はなんかちょっと変わった作りですけども、音が普通、上からファーッと音が降りてくるんですがどうしてもまっすぐ降りてくる、まっすぐ突き刺さってくるような音で、箱は800人入るけれども、音響としてはどうかなというふうには思いました。多分、音楽をやるっていうところの問題のは、規模、ステージに乗るのかっていうことと音響っていうところがあると思います。実際、私も市内の合唱団の方とじっくりお話をしたときに、私たちはとにかく自分たちの音がしっかりと綺麗に届くような、やっぱりそういった環境が欲しいというような話がありましたし、おそらくこの2つだと思います。

で、この2つを北方でクリアできるのかっていうと、やっぱりそれはなかなか難しいんじゃないかっていうような話をこの前も聞きました。なので、それも私はとても大事な指摘だと思うので、そこはしっかり受け止めて、今後考えていきたいと思います。

(参加者)

- ・新しくできる文化交流施設に300人のホールができるという話でしたが、300人にした理由とか、500人とか、1000人じゃダメだったりとかあるんでしょうか。

(文化課 井手室長)

- ・文化施設を作る計画を立てたときには、もともとホールというところはなかったんですけども、文化団体の方とお話をする中で、やはり小さくてもいいから、自分たちが発表できる場だったり、そういったところを用意していただきたいというご要望がありまして、いろんなところを見に行く中で、新しい施設については、多目的ホールっていうところを考えました。もともと小ホールが900人というところがありましたけれども、それと北方にも500人ぐらいのホールというところで、その500のホールもすでにあるので、そこを北方に集約するという計画がもともとあった。なので、500のホールはもうすでにあるというところで、じゃあその同等ではなく、300規模で決まった。多目的ホールでは音楽ももちろんなんです

けど、パーティーだったりイベントだったり、いろんな用途で多目的に使えるホールということで考えています。

(参加者)

- ・300 人と規模は、もちろんそれを必要としている方々がいるので、とてもいいなと思ったんですけど、私たち学生が文化会館でやっていたものが学校になったという不満は、300 人規模の文化ホールでは解決できてないと思うが、そこはどうやったら解決できると思いますか。

(市長)

- ・そこは、とにかく文化の灯を消したくなくて、文化を愛する人が文化活動ができる環境を整えていくっていうのはとても大事だと思います。そのためにどうすればいいのかっていうところで、今じゃあこうすればいいっていうのが言えないですし、例えば学校で去年と同じようにずっとやっているっていうのは、みんなやっぱり学生みんなが、それはちょっとっていう、とても不満が大きいんだったら、その不満はしっかり受け止めなければならないと思っています。ですので、もうここは無責任にはこうしますっていうのは言えなくて、大ホールをどうするかを今もう一度考えているところですので、どっちにしてもそういった学生の皆さんがしっかり充実した発表ができる環境、それはさっき言った規模もそうですし、質の高さ。この辺りを、どういう風な形で作るのか、それを作るっていうのが大事。そのために、やり方としてどうすればいいかっていうのをもう一回今考えているので、今のところは、ごめんなさい、今すぐこうしてください、こうしますっていうのは言えないけれども、とても大事な部分なので、これからやるときには、しっかりと踏まえて、ちゃんとやりたいと思います。

(参加者)

- ・佐賀新聞で、この文化会館の解体か改修かって話があったときに、佐賀新聞の後ろの方に掲載されてあって、私たちの目に、ひょっとしたら気づかない場所に置いてあった。なので、私の周りの人々が、みんなこの話がどうなるかっていう協議がされていることを知らなかったという経緯があった。それについては、広く広報しようとされなかったのか。

(市長)

- ・12 月にまず、議会で少し一旦立ち止まりたいというふうに言って、そしてその後 1 月からいろんな団体の方に声を聞きました。声を聞いて、そして方針を決めて、じゃあ市民の皆さんに意見を聞きますというタイミングで新聞に出たんじゃないかなというふうに思います。

(参加者)

- ・私たちが今回求めていることは、できるだけ多くの人に納得してもらえる内容で、解体なら解体の時の解決策を持ってきていただくことと、できるだけ多くの市民に納得していただくっていうところで、多くの人の声を聞いて、多くの人の立場から聞いて、公募してもいいところがあるが、そこはこれから絶対に確約してもらえるのでしょうか。

(市長)

- ・さっきも言ったように、昨年 12 月に、やっぱりもう想像以上にお金がかかるんだったら、もう廃止だということではなくて、一旦立ち止まって意見を聞きますということで、一旦踏みとどまって話を聞きました。その後、市民の皆さんの意見を聞いて、またあの意見を募集

して、そして次回からもいろんな意見を聞いて、今その状況です。決めようと思えば、例えば勝手に独裁であればもうこれやるんだってなりますけれども、そうではなくて、しっかり意見を聞くっていうプロセスをたくさん意見を聞いてどうしようかっていうのを我々もしっかり受け止めて今考えているところですし、今後についても、もうすいません、こうしますってことはせずに、そこはしっかりと丁寧に聞いていくってところは続けていきたいなというふうに思っています。なので、言ったことについては、そこはやっていきます。今、そういう状況で、決まったことについての説明じゃなくて、今一旦たくさんの意見をもらって、それを受け止めて考えているっていうような状況なので、こうこうですというふうに言えない部分もあるんですけれども、今日、いろんなあの意見ももらいましたし、なるほど、やっぱりここは大事だっているのもあったので、今日の意見も、今後、市民の皆さんの意見も受け止めるっていうのと合わせて、ここはしっかり受け止めて進めていきます。

(参加者)

- ・取り壊しが決まったとしたら、取り壊した後の土地はどうなりますか。

(市長)

- ・そういう話もよく意見としてたくさん伺います。取り壊してそのままですか、あるいは取り壊したんだったらそこに新しいものを作ればいいじゃないですか。そんな小さくなくても綺麗に新しいものを作ったらいいじゃないですかっていうようないろんな意見ももらいました。結論として、今取り壊すかどうか決まってないですし、でも大事なのは取り壊さないなら取り壊さないだけの説明は必要ですし、仮に取り壊すにしても、セットで市民の皆さん、中でも文化をやっている方を中心に、納得いくようなセットの案っていうのを出す必要はあるなというふうに思っています。そこを今考えているところですので、もしそうなった場合に取り壊した後どうしますかっていうところは当然皆さん気になる場所ですので、そこは併せて対案というか、セットの案は示さなきゃならないなと思っています。

(参加者)

- ・予算が思っていたよりも大きくなったから、一旦、改修工事の件を一旦踏みとどまるとおっしゃっていましたが、その大きくなった予算の分が、国からの補助金などで補われたりとかはできないんですか。

(文化課 井手室長)

- ・なんとかできないかっていうのもかなりいろいろ考えたんですけども、おっしゃるとおり、国の補助なんかも使いながら制度を進めているところですが、やはり全国に自治体たくさんある中で我々も頑張ってますから補助金くださいということでお願いはしているんですけども、そこにもやはり限界があります。

(参加者)

- ・もともと文化会館を数年前から改修工事しようっていう方針があったと思うが、聞いた話の中に、デジタル田園都市構想補助金を文化会館の改修工事に使う予定だったと聞いたんですが、この補助金を使って補えなかったりするんでしょうか

(企画政策課 小柳課長)

- ・よく調べていただいています。デジタル田園都市国家構想補助金っていうのがあって。文化施設を立てる時にも考えられましたが、国から補助金をいただく時のルールで、複数の補助金

はもらえないことになっています。なので、どの補助金をもらえるのかという検討をした時に、今使っているまちづくり関係の補助金があって、そちらの方を使った方が比較検討して有利なので、こっちを使いましょうという話になったというのは記憶しています。

(参加者)

- ・文化会館の予算を立てる際に、その補助金を使った状態で、予算が組み込まれていたという認識でいいですか。もし組み込まれていない状態だと、その補助金は使えるんじゃないかなと思ったんですが。

(文化課 井手室長)

- ・もともとこの予算でいうところで、計画を立てた時には、その補助金もちろん計算しておりました。ただ、国の予算にも費用の上限とか、そういったものがあるので、費用が高くなったから、補助金も多くくださいっていうところは、やっぱりルールがいろいろあるので、なかなか難しい面がある。

(市長)

- ・今話があったように、国の補助金を活用するのは大事です。活用することで市民の皆さんの税金を補助金があればそれだけ使う額が安くなるからですね。先ほど話があったように、デジタル田園都市補助金よりも、よりたくさん補助がもらえる補助金を今回は活用することにして、市民の負担の軽減を図ったというところです。でも補助金もそんなにすごくいっぱいもらえるわけでもないし、物価高騰で上振れした分、追加で補助金をもらえるってことはないで、そこは自分たちで見えていかなければならないというような事情がありました。繰り返しですけども、お金だけですべてを片付けてはならないというふうに思っています。確かに今、人口が減っていて、武雄市も合併して 20 年経とうとしてるんですけども、周辺の他の町もすごく人口が減ってます。人口が減っている中では、やっぱりその人口に合わせた行政サービスとか、あと建物とかをスリムにしていかなければならないっていうふうに、国からも言われています。なので将来の財政のこと、負担のことは考えていかなければならない。でも一方で、さっき話があったように、文化のことは、そこはお金がないからなくなりました。文化もなくなりましたでは、このまちに先がないと思っています。なので、その 2 つがなんとか両立できるような案がないかっていうのを、1 回案としては出しましたけども、いろんな意見をもらってますので、もう 1 回今いろいろ考えています。そこはその両立が図れるような案っていうのを示して、またみんなの皆さんのいろんな意見が聞けるようにしていきたいというふうに思っています。

(参加者)

- ・解体の決定というか、どういう方針になるかの決定までに、まだ時間がかかると思う。その間は、ホールって使っていなかったらどんどん錆びれていくものなので、決定までの間に何回か開放するということはしないんでしょうか。

(市長)

- ・本当はやりたいんですけども、今、地震が起きた時の耐震基準を満たしてないので、危ないので使えないんです。だから次使うときは、耐震対応をしないと使えないというふうになっています。

(参加者)

- ・耐震の改修のためだけなら予算が足りるとかはしないんですか。

(市長)

- ・耐震以外にも改修にはいろんなグレードがあります。改修してとても立派なものにするものから最低限のものをやるということまであります。今回もともと考えていたのは、そんなすごいグレードアップしたものではなくて、しっかりこれからも使えるレベルのものっていうとあれですけども、そういうものを考えていました。その中で耐震だけではなくて、それこそ雨漏りもしたり、様々な面を直していかなければならない。これはどちらかというところ、必要最小限に近いような形での改修を考えていた中で、かなり上振れしたというところもあります。建物って家も住んでないと古くなっていくっていうのを言われているので。なので、やっぱりこの話はとにかくいつまでもズルズルと引き伸ばすのは良くないというふうに思っていますので、中でも検討を急いでいます。

(参加者)

- ・私も「文化会館取り壊しらしいよ」って言われるまで、文化会館がなんで入れないのか、使えないのかすら分かってなかったの、家でニュースが流れていたりとか、でもケーブルワンの番組をすごく見るわけでもないし、お父さんは新聞を読むけど、あんまりそういう話を家族でしないので、そういう学生の皆さんとか、テレビをあまり見ない人でも、文化会館はなんで閉まっているんだろうっていうのがよくわかるようなメディアの発信の仕方ってなかったのかなっていうのがあって、そこについて何か考えていたりしていらっしゃいますか。

(市長)

- ・市民の皆さんの中でも文化に関心がある人とあんまりない人っていうので大きく分かれているところはあります。それはスポーツもそんな気がするんですよね。サッカーやっている人が、バスケットに興味があるかっていうと、必ずしもそうではないっていうのもあって、皆さんやっぱり自分がふさわしいことだと思います。自分がこれやりたいっていうことで演劇の話もあったけど、それを頑張ってやっているっていうのは素晴らしいことですけれども、まず文化に。みんな関心があるかっていうと、文化なんていいだろうって言われたこともあります。僕はそう思っていないですけども、でもそれも市民の意見だったりするんですよね。様々な関心がある中で、でもそうやって関心を持ってもらったっていうのは、とても僕たちからすると、それはありがたいことだし、嬉しいことだと思います。なので、もっといろんな世代、それこそ中学生とか高校生の皆さんにも、今こういうことを考えているとか、こういうことがあるんだよっていうのをもっと伝えていく。いろいろ教育現場でもやってはいるんですけども、多分まだ足りないんじゃないかなと思います。これからこのまちを作っていくのは若い人だと思っていますので、今年から高校生の皆さんに意見を聞くタウンミーティングをやろうと思うんです。あの高校生、ぜひよかったら来てほしいなと思うんですけども。そうやって皆さんに関心を持ってもらうことで、また、こうやって意見を聞くことで、それを受けてまちを作れば、みんながもっと住みやすいようになる。このまちにもいたいなと思うようになるかもしれない。そうやってみんなの関心を持ってもらう努力っていうのはまだ十分かというところではないっていうのを今改めて気づかされたので、そこはとにかく、皆さんに関心、まちに関心を持ってもらうような工夫や仕掛けっていうのを今後ちょっと

教育委員会や学校等と考えてみたいと思います。

(参加者)

- ・市民に広報するっていう意味では、今は武雄市報であつたりとか、駅、市役所、私たち学校施設とかでも、広報をしやすい場所っていうのが存在すると思う。そういう場所で、定期的に今の状況がどうで、どういう情報を市民に求めているのかっていうのを訪ねていただくことによって可能だと思います。

(市長)

- ・昨年、武雄高校だけではなくて、周辺の伊万里高校、そして鹿島とか白石とか、いろんな高校に行って、話をこうやって聞いたんですよ。とてもたくさん発見がありました。白石であれば、やっぱり通学の電車、待ち時間の拡大とかいうのもありましたし。まあ、伊万里高校ではまた別の問題もありました。そういう機会をちょっと増やしていきたいなと思います。さっき言った通り、こっちからの情報発信をもっとしていかなければならないんですけども、むしろやっぱりこうした方がいいんじゃないか、今日お話もらったように、そういう場面っていう機会っていうのは、今度まず、今月、若い皆さんの意見を聞いてやろうっていうようなのをまずスタートするので、それで終わりにすることは絶対にせずに、なんかこう、いろんな場面を捉えて、話を聞いていこうというふうに思います。

(参加者)

- ・意見箱を置いたり、市報にたまに差し込まれているものみたいに、2ヶ月に一度とか、今の状況とかっていうのを発信していただけたら、見る人は多いし、意見もたくさん集まるんじゃないかなと思う。

(市長)

- ・確かに。それだけ市報を見てもらっていて、とても嬉しいなと思うんですけども、今の市報の作りって、特集があつて、お知らせがあるっていう。お知らせはいつも日々のお知らせ、毎月のお知らせだけでも、特集については、雨の時は防災とかいうふうにはやっているけれども、ちょっとそこは今の動きとか、そういうものはもっと載せていってもいいんじゃないかなというふうに思ったんで、そこはちょっと広報の担当課と話してみようと思います。今の動きみたいなのですね。ぜひ、これからも読んでください。

○武雄アジア大会について

(参加者)

- ・アジア大学建設が始まっているのを多くの人が見ていると思うんですけど、前市長の樋渡さんが認可される確率が1%以下と言われていた。アジア大学は国際的な大学と思うが、長崎や福岡に既にある中で、認可されるって思う理由が私たちには分からないので、説明いただきたいなと思います。

(市長)

- ・もともと大学を誘致しようと思った理由っていうのがいくつかあります。まず1つは。大学という学びの選択肢をこの地域で増やしたいというふうに思ったからです。特にこの佐賀県西部は大学がないですし、佐賀県は大学が2つしかないというような状況でもありますので、やっぱり自分の身近なところで大学に行くという、そういう選択肢を作りたいというのがあ

りました。私は教育というのは夢への架け橋だというふうに思っています。これが一つです。もう一つはやはり日本全国どこも今人口が減っています。東京にとりか大都市にみんな行くのが悪いことではないんですよ。それはもう行きたい人が行けばいいんですよけれども。現実として東京とか大都市に人が流れて、そして地方はどんどん人口が減っています。それをなんとか食い止めたいと。これからずっとつながるまちを作っていくときに、人口がいなくなったらもうまちはできないんですよ。人口減少を食い止めたいという時に大学が来て、若い人がある。そして4年生が卒業してもまた1年生が入ってくるので、常に新陳代謝があるのが大学なんですよ。若い人がくればまちも活気づく、活性化にもつながるっていうふうに思ったのが2つ目です。そして3つ目は、子どもたちだけではなくて、いくつになっても気軽に学べる場を作りたい。今、武雄には武雄市民大学という高齢者の方中心の学びの場があります。山内には黒髪大学というのもあります。とてもたくさん来られて、武雄市民大学もお断りするような状況なんです。とても学びたい意欲っていうのが皆さん盛んでいらっしゃる。そういったいつまでも何かを知りたい、学びたいっていうのは、それは若さ、そして健康にもつながる、生きがいにもつながってくると思います。それはいくつになっても元気な暮らしができるまちにもつながってくると思うんです。そういった大きく3つの理由から大学誘致っていうのを考えたわけです。でも大学は今建設している、普通だと変ですよ。認可が下りてから作りますよね。認可が下りた、よし、じゃあ建物を作ろうということなんですけれども、ここが私も不思議だなと思うんですけれども、大学を作るのは戦後、文部科学省が建物の認可のための審査の対象になるんですよ。どういう学び舎があるかっていうところも審査の対象になるので、新しく建物を作る場合は、審査と並行して建物を作っていかなければならない。じゃあ認可されればいいけれども、認可されなかったら建物どうするのか。もうそれはもう壊すしかないんですよ。もうそこはもう諦めた。学校を作る法人が認可されなかった。もうじゃあ大学を作るのを諦めますってなったら、もう自分たちの責任で建物を壊すっていうのが仕組みなんです。なんか不思議だなって思うと思うんです。もったいないよねって思いますよね。でもそれが戦後の文部科学省の大学新設のやり方なんです。ルールがおかしいと思っても、こっちから僕もどうかなって思うところはあったんですけども、それを言える立場ではなくて、それは国が、この大学は大丈夫かって言って認可をするんで、そのルールに沿っていかなければならないということで、今ルールに従ってやっています。認可を取れるかどうかっていうのは私もわかりません。去年10月に佐賀女子短期大学と佐賀女子高校とか運営している学校法人旭学園が学校を作る主体ですので、そこが文部科学省に大学を作りたいという申請を出しました。秋からずっと冬、そしてこの春、夏にかけて今ずっと審査が続いています。審査については、そこは順調に進んでいるというふうに聞いていますけれども、一体どういった審査をされているのか、認可がされるのか、そこは私もよくわかりませんし、多分聞いても教えてくれません。そこは専門の研究者の人が、この大学は果たしてしっかりとした教育内容なのか、2つポイントがあると思っています。まず大学としてしっかりとした教育内容があって、それを教えられるのかっていうことです。そしてもう一つは、財務状況など、この大学はしっかりと開学した後も体力があるのかという、この大きな2つについて、ずっと専門家が審査をしています。その審査の結果っていうのが今月の末ぐらいにはわかるんじゃないかというふうに言われていまして、正直そこは認

可は出るんですかってよく聞かれます。でも正直私には今わからない状況です。審査は順調は進んでいると聞いてますけど、認可が下りるかどうかはわからないというような状況です。

(参加者)

- ・前市長は、旭学園がお金を出すという大前提があるっていうのを聞いたんですけど、お金が旭学園にあるかって言われたら、ないんじゃないかなっていうのも聞かせていただいて、旭学園がお金を出せなかった場合については、私たち市民の税金とかのお金が使われてしまうのではないかっていう不安があって、旭学園が確実にお金を出せるという確証があるということですか。

(市長)

- ・そこも含めて今審査されていると思います。認可が通れば、そこは大丈夫だという判断ですし、認可が通らなかった場合はどういう理由かっていうのを知れるのかどうかかわからないですけれども、その部分については、専門家が今、文科省で審査をしているんだと思います。

(参加者)

- ・旭学園がお金を出せる、出せないっていうのは私達にはわからないのか。

(市長)

- ・財務状況についてはもう文部科学省に丸投げですと。それはあまりに無責任だと思いますので、それは市の方でも、旭学園の財務状況については確認しています。確認した上で、これなら大丈夫だというふうに私たちは思っているんですけれども、一方で専門家が今審査をしているので、そっちはそっちでその結果を待ちたいなと思っています。

(参加者)

- ・払えなかった場合とかはまだ考えられないと思うんですけど、認可されるとそもそも私たちがあまり思っていない。説明がもらえないっていうのは今聞いたんですけど、基準を教えてもらえないことで、疑問の解決ができないのに建設を進められている状況。やはり市民の不安とか、納得できる理由とかは、まだ今説明できない状況なんじゃないでしょうか。

(市長)

- ・お金の面については、先ほども言った通り、旭学園の財務状況というのは、当然市でもチェックというか確認はしています。その上で今、専門家の方をお願いをしているということです。これまで大学については、50回以上いろんなところで説明をしてきました。それをどう考えるかですので、それでも足りないと思う人もいるかもしれませんが、私たちとしてはできる限りのことはしてきましたし、その場でわかるところについてお話をしてきましたので、あとはその審査の部分ですね。審査の部分は正直私も当事者ではなくてわからない部分があります。わからないことをわかりますというのは不誠実ですので、わからないことはわからないというふうには言っているんですけれども。ただ一方で私たちとしては、自分たちができる範囲での確認は、いろんな面で市民の皆さんに損害を与えてはいけないというふうに思っています。その点で、私たちができる確認はしてきましたし、そして、説明もできるだけしてきたつもりです。ただ、これについては今後さらにしっかりと説明は当然していく必要はあるというふうに思っています。

(参加者)

- ・建てている場所が市の土地という今の状況で且つ不十分な説明の中で、市の土地に私立の大

学を建てるっていうのは、あまりにも私たちには納得ができない。私たちが持っている土地が、勝手に建物が建てられていて、私たちがまだ納得していないのに、建てられているという状況にまだ納得できていないので、説明をいただきたい。

(市長)

- ・市の土地、要は行政が持っている土地に、例えば全然関係のない民間の企業に貸して、自分たち儲けてくださいという。ことはおかしいと思うんですね。市の土地を貸すっていうことは、それなりの公共目的が市民にとってプラスになるような目的が必要なんですよ。じゃあ今回の大学が運営するのは、建物を建てるのも学校法人です。市ではないです。そこを運営するのも学校法人、市ではないです。じゃあ市はそこに貸していいのかどうかっていうと、それが公の市民にとって利益があるような目的であるかどうかっていうのはとても大事だと思ってます。もうどんな土地でもどんどん貸すっていうようなことはあってはならないと思ってます。そういう意味で、私たちも今回の大学っていうのができるのに、果たして市民にとってどういうふうな利益があるんだろう、いわゆる公益っていうものですけど、あるんだろうっていうのを考えました。数字では経済効果っていうのは示してます。大学が来た場合に 25 年で 154 億という経済効果があることは示していますが、お金だけではないというふうに思っています。大学が来ることで、じゃあそこに来た学生の皆さんが地域に出て行って、そして一緒に地域の課題を解決するとか、それは地域の活性化にもつながります。そして企業の皆さんと一緒に何かをやるということは企業の活性化にもつながりますし、大学が来ることで、そこでさっき言った市民講座があったり、市民も学べる機会が増えるっていうのは、市民の皆さんの文化水準の向上にもつながる。いろんな面でお金には変えられないところを考えたときに、これは公益、公共目的、公益があるというふうに考えられるので、私たちとしては貸すということにしました。でもそこには線引きは当然必要だと思う。もう何でもかんでも貸していいやではなく、いろいろ考えた上で貸したっていうことです。

(参加者)

- ・青陵中学校で来るのは佐賀大学や長崎国際大学への校外学習だったりなんですけど、武雄アジア大学は圧倒的に土地が狭いと思う。その狭い土地にさらに駐車場とかいろいろ考えると、すごく狭くなるんじゃないかなと思うんです。たくさんの人に武雄に来てもらおうっていうのはとてもいいなって思っていて、活性化っていうのはすごく必要だなと思うんですけど、それに対応するほどの広さではないんじゃないかなという疑問があります。

(市長)

- ・確か文部科学省で学生 1 人あたりにこれだけの面積を用意しなさいということに決まっているんですね。それで今回、生徒数、学生数と面積を掛け合わせて、学びに必要な面積は十分に確保されているというふうに思います。その土地の広さなんですけれども、今考えられている大学というのは、学校の中、キャンパスの中だけが学び舎ではなくて、町全体がキャンパスだっていうふうな発想がある。つまり、あの教室の中で、教室方式で、先生が書いてるのをみんなで勉強するという学校の授業のようなやり方もあるかもしれないですけど、それよりは現場に出て行って、地域の課題、やはり今、武雄高校でも探究の授業をやってますけれども、地域に行って、その今困っていることとかと一緒にいろんな人と協力しながら、それを解決していく。そしてそれが。学びになるし、実際単位になるっていうような授

業が増えてきているんですけれども、そういう授業を重点的にやろうとしているので、いわば学び舎っていうのは、まち全体がキャンパスだっていうふうに考えているので、ぜひなんか、私としては、そのもし認可が下りて、開学が決まって、学生の方が来たら、どんどん町の外に学びに出て行ってほしいなと思いますね。

(参加者)

- ・ 私たちのような佐賀県に住む若者が、果たして武雄アジア大学に行くのか、行きたいと思っているのかっていうのがある。武雄アジア大学は、今、東アジア地域共創学部の学部学科を予定されていると思うんですが、そこに私たちが行きたいと思うかっていうのは、もちろん佐賀県内なら、佐賀県の佐賀大学とかだったりとか、国際系で言えば、長崎外国語大学や福岡の国際大学の方が、学問学科も多くて、先生もいっぱいいらっちゃって、そっちの方が学びが多いと考える生徒の方が多いと感じている。それに関して、高校生が、武雄市の高校生が、果たしてそこを目指すのか。そもそも佐賀県内の大学進学率が全国的に見て低いというのと、佐賀県内の学生が佐賀県の高校に、大学進学率っていうのが全国的に見て低いっていうのがあって、これからもそれは変わらないと思う。実際に佐賀大学の生徒の半分以上を佐賀県の人々が占めるっていうのが理想とされているんですけど、半分は少ないといった現実がある。そんな中で、敢えてわざわざアジア大学を選ぶ人がいるのかというのがあり、それについてどうお考えですか。

(市長)

- ・ まず大学の進学率については、佐賀県も確におっしゃる通り低いですね。低いんですけど、年々上がってきています。平成元年と今を比べると、高校3年生の卒業生って減っているんですよ。確か1万1000人から7000人ぐらいで減っているんですけど、大学進学者はむしろ増えているんですよ。私もいろんな周辺の高校、武雄高校以外のところも聞くと、今まで実業系の高校、例えば嬉野高校とかですね。そういったところは、就職をすると、卒業するとやっぱり就職をする、専門学校に行くっていう人が多かったんですけども、最近は4年制大学への進学を進めているそうですし、そういったところも実際、4年制大学への進学というのも上がってきているということです。なので、佐賀県の大学進学率が一気に全国トップになるかっていうとそれは現実的じゃないと思うんです。でも今のじわりじわり上がってきているトレンドっていうのはまだ続くんじゃないかっていうのが私たちの見立てですね。もう一つは学生が集まるのかってところですよ。これとても大事なところですね。全国でも大学短大で学生がほとんど来なくて、もう大学やめます、閉校しますっていうところも出てきています。それに危機感を覚えて、文部科学省も今やっている審査ですね、認可を受けるための審査も去年から厳しくなりました。潰れるような大学を作ったら、文部科学省の自分たちの責任になります。なので、そこではしっかりとここは学生が確保できるのかっていう見込みもアンケートという形で出させて、そしてそれも審査に入っているということでした。今、アンケートについては、佐賀県内とか周辺とかで高校生に向けたアンケートでは、希望調査では定員数を上回っているというふうには聞いているんですけど、そのあたりも含めて今審査がされているということです。

(参加者)

- ・ 商業、実業高校って、大学を受けるためには単位が足りなくて、共通テストを受けられないっ

という学校も何個かあると聞いていて、もし、私立大学で必須教科、アジア学部とか外国語学部とかでしたら、基本必須が外国語で、その後国語とか地理とかそういうのがいくつかあって、それらを取ると思うんですけど、その商業、実業高校がもし入りたいって言ったとして、入試制度が自分たちのできる基準に合わないのであれば、受けられないじゃないですか。そういうことも考えていただきたいなと思います。

(市長)

- ・最近の受験は本当にたくさん、指定校推薦からですね、総合選抜からいろいろな手法が、あります。そこも当然旭学園の方では考えられているというふうに思っています。これは多分アジア大学に限らず、他の学校も大学も、今一つのテストだけで決めるんじゃないくて、いろんなやり方を定めて、とにかく多様な魅力ある人材を取ろうっていうことで、いろんな試験があると思っていますので、そこは当然考えられているはずです。

(参加者)

- ・大学ってサークル活動があると思うが、あの土地の広さだと、サークルというか、テニスコートや陸上競技場、体育館は建てられないんじゃないかと思う。もし建てなかったら、その周辺にあるケーブルワンスポーツパークや白岩陸上競技場などを使うと思うが、それは今の時点で予約がいっぱいになることもあるケーブルワンスポーツパークを大学生が優先して使うとなったら、市民のスポーツ活動というのが滞るんじゃないかと思っているんですけど、そういった施設の利用についてどう思われていますか。

(市長)

- ・確かに、サークルができたならそういった市内の施設を使うっていうのはあると思います。ただ、そこは大学ができたからといって、大学に優先して使わせるようなことは私たちとしてはするつもりはないです。

(参加者)

- ・その場合は、サークルのメンバーの方々は結構どういう使い方をするのでしょうか。

(市長)

- ・そこはですね、例えば私の例を言うと、大学の際は合唱団で、それこそ教室を使ってました。一方で、ほんのちょっとだけバドミントンサークルに入っていたことがあって、3ヶ月で辞めたんですけどね。それはやっぱりもう当然、その大学の近くにある区民体育館で、区民の皆さんと同じような条件で申し込んで使うということなので、それはどこもやっていることなんじゃないかなというふうに思います。

(参加者)

- ・授業で使うことはないんですか。

(企画政策課 小柳課長)

- ・授業ではそんなに多く使う頻度があるわけではないですが、大学のカリキュラム内で使う時に限っては、体育館とか陸上競技場などは扱っていいですよという風にしています。あとは先ほど言われた通り、もう他の市民と全部一緒です。

(参加者)

- ・認可が今回下りなかった場合は、建築を進めて認可に備えるのか、それとも解体して何かそれをその土地を利用したりだとか、その解体をするなら、その時の予算も知りたいです。今

のところの予定があつたりとかはするのでしょうか。

(市長)

- ・今もし認可が下りなかった場合の話ですよね。認可が下りなかった場合は基本的に、もし旭学園がもう諦めて大学しませんというふうになったら解体ですね、基本的には。解体は誰の費用でやるか、旭学園の費用でやります。市民の皆さんの税金を使うことはないです。一方で、例えば認可が下りなかったという場合に、どういった理由で下りなかったのか、そしてじゃあその後もう1回チャレンジするのか、そのあたりはいろんな状況があると思いますので、まずはその認可が下りなかった場合は、旭学園の方とすぐに話をした上で、今後どうしていくかっていうのを考えていきたいと思っています。ただ、そうなった時には、当然、例えば支援をする予算というのは、議会の議決とかも必要になったりしますので、当然いろんな面で議会にも相談をしたいと思いますし、市民の皆さんにも、そこはこういう状況ですというところは説明をしていきたいと思っています。

(参加者)

- ・土地を貸し出されているじゃないですか。もし、解体となったときに、その土地を返してもらふことになると思うんですけど、その際に、その土地に旭学園から、干渉という聞こえが悪いんですけど、それについて、何か使い道をこうしたいと言われることはなく、貸し出しているものだから、返してもらったら、その後は市民の資産として使うことができるという認識でいいんですか。

(企画政策課 小柳課長)

- ・旭学園さんがあそこを大学用地として、大学を運営するために使うという目的で契約をしていますので、先ほど質問いただいたように、勝手に他の用途に使うからということで、貸し出せないように契約をしています。

(参加者)

- ・大学建設とか運営に私たちがお金を払うことは絶対にないって言い切ってほしい。

(市長)

- ・運営の話ですね。よくそれも言われます。大学ができた後に運営は大学はするけれども、そこに対して市は運営費ですね、毎年毎年の支援をすることは考えているんですかっていうのは聞かれることは多いですが、それについてはそういうことをするつもりはないです。

(参加者)

- ・私たちが聞いたり調べたりしていた時には、武雄アジア大学を作るにあたって、補助金や旭学園のお金はもちろんなんですけど、それを補う部分を武雄市民の税金で作ったり運営したりすると聞いたんですが、それはないんですか。

(市長)

- ・建物を建てるところに対して、市は補助を出します。ただし、それは今作っている状況ではなくて、開学すると認可が下りるっていうのは、イコール開学ですよ。それを条件に補助を出しますということです。その補助を出すっていうところについても、果たして補助を出す、市は13億出します。県も6.5億出すということで、とても大きな金です。それだけを出す意味があるのか。さっき言った、補助金を出すためには、公益性がないとダメなんです。公益性っていうのは市民にとっての利益です。それがあるときには、自治体は補助を出すこ

とができるっていうふうに、地方自治法でも書いてあるんです。その辺を慎重に見極めて、やはり私たちは、この額であればそれ以上の効果があるというふうに見込みましたし。今進めている事業をストップして、そっちを削って回すんじゃないくて、今の事業をしっかり進めながらも出せる額だというふうに判断をしたんで、私たちもその補助額を出すことを考えました。これももうご存知だと思うんですけども、僕が出しますと言って決められるものじゃなくて、こういうことをやりたいですっていう予算を出す権利はあるんです。それが OK ですと認めるかどうかというのは議会の方で、議会でもやっぱりこの大学の話は何回も委員会がずっと開かれて、議論なり検討はされてきて、私たちはこれぐらいしっかり公益性があるんで、この額で補助金を出したいというふうに議会に提案して、議会も議論をして、認められたというような状況ですね。なので、そこはとてもやっぱり我々も慎重に考えました。西九州大学の看護学部が小城にあるんですよ。小城市も西九州大学看護学部を誘致しました。その時に最初の建物を建てる時に小城市も支援をしています。その支援のやり方全体のどれぐらい何割を出すっていうのは、基本的には小城市が西九州大学に出したやり方を我々も踏まえて、同じようなやり方でも出している。ということだったり、いろいろ市民にとって利益はあるのか。財政面で大きな負担はないだろうか。いろんな事業を削ってまでやるつもりはもともとないんですけども、将来的にの負担はないだろうか。そして他の大学に支援をした。小城市の例とかをそのまま参考にしてるので、他と比べて課題ではないだろうか。そういったあたりも考えて、支援額というのは決めています。その分は最初に建設の時には出しますけれども、運営、いざ開学になった後に、市がそこに税金を出すというのは考えていません。

(参加者)

- ・交通という面で少し意見を伺いたいんですけど、ケーブルワンスポーツパークが新しくなってから、利用者数は増えているじゃないかと思います。それでどうしても車がたくさん停まったりとか、あそこに入り込んだりとか、私は弓道場を使わせていただいているので、弓道場の私たち専用の駐車場を使ったりとかっていうのがあると思うんですけど、どうしても大学ができたら人の数が増えるので、交通は滞るはず。また、向かい側の河川の道から渡る道っていうのは、まだない。どうしても隙間が空いていて、ちょうどケーブルワンスポーツパークに渡れる道って今存在しない。そういう面で交通の整備、大学生が来て、交通量が増えて、歩行者の方も増えてという点で、何か対策やその改善策というものは何か出されないんでしょうか。

(市長)

- ・そこはまず学生の方は車で来る人も多いでしょうけれども、例えば武雄に住んで、そこから自転車で来る人、あるいは駅から歩いて来る人が多いんじゃないかというふうに思っています。車の対策も当然大事だと思います。そこは市民の交通安全、危険なことが起きてはならないんで、車も大事なんですけども、もう一つ特に私は歩行者ですよ。歩く人は増え、自転車が増えると思いますので、歩行者の対策は、そこはしっかりとっていかなければならないというふうに思っています。今、例えば駅前からずっとまっすぐ来たところでですね、それで横断歩道を渡るっていうのもありますけれども、とにかく、そこは事前にとれる対策っていうのは、まだ認可を下りてないので動けないんですけども、認可を下りて開学までの

間に、特に歩行者対策については取れるところは取っていかなければならないと思っていますし、もし開学後に交通の流れが変わったら、そこは当然大学生だけではなくて、市民の皆さん、やっぱりここは交通の安全っていうのを守るのは、これは大学ができるできない関係なくどこでも同じですので、そこは開学後もやっていきたいなというふうに思っています。また、現状については、当然危険なことがあってはならないので、そこは改善できるところは早急にやっていきたいと思います。

(参加者)

- ・今はまだ曖昧というか、基準もわからないし、お金の問題も旭学園から出るとは思っているけど、まだわからないというか、今検討中っていうのがたくさん出てきたっていう印象なんですけど、詳しい日付が知りたいわけではなくて、目処とかが立っているのかっていったらわからなくて、例えば認可が取れるであろう日付とか月とかそういうのがわかっているだけでもちょっとそれまで待ってみようかなとかそれまでちょっと別のことを考えてみようとかできると思うので基準は教えてもらえなくても認可の結果がわかる時期を教えていただきたいなって思います。

(市長)

- ・本当に審査の中身は、さっきも言いましたけれども、私たちにも全く知らされない、むしろそういうのは漏らしちゃいけないっていうふうになっているので、それが当然なんだろうと思います。その前で、さっきの旭学園の財務状況であったりとか、我々が確認できること、これは大丈夫だと。確認できるところについては、我々ができる限りのところはやっています。じゃあ今後の認可ですけれども、今聞いているのは、この8月中とって、8月末にその判定が出るというふうに聞いています。

(参加者)

- ・8月末ということは、広報されているのでしょうか。私は知らなかったんですけど、市民に向けてそのくらいに結果が出ますよって、それから方針を決めますよということは、市民の方に広く知らされているのでしょうか。

(市長)

- ・いろいろ説明会とかでは、これまでもだいたい例年の出る時期がそのくらいですので、8月末、その時期に出ますっていう説明はしているんですけども、ただそれがまだ自分伝わってないということであれば、そこはやっぱり引き続き伝えていく必要があるなと思っています。いろんな説明会とかで、いつぐらいに、やっぱり皆さん関心がある中身なので、そういったお話はしているんですけども、引き続きそこはちょっといろんな場面で話をしていきたいなと思っています。

(参加者)

- ・正式な文書があって、それが広がることで、生まれない誤解というものもあると思うので、そういうのはもう正式な文書として出していただいて、広く配っていただけるといいなと思います。

(市長)

- ・そこは正式な文書でいつ来ますというふうに、私たちも来てないので、例年でいくところぐらいですとしか言えないので、そこはどういうふうに伝えるかっていうのはあるんですけど

ども、いろんな場面でそれは伝えていこうと思います。

(参加者)

- ・私たちが話し合いの前に思っていたのは、ほとんど疑問に対して、公にされてないということだと今思っ、まだ分からないし確実でないというのと、検討しているということ自体がまだ分かってなかったの、取り壊しが決まっているのか、決まってないのかすらわからなかったっていうのが、ここの話し合いをしている原因だと思うので、やっぱり分からないなら分からないっていうのをみんなに知らせてほしいなって思います。

(市長)

- ・認可が取れるんですか、取れないんですか、ちょっと我々は審査についての情報が出てこないとわかりませんっていうことですよ。そこはいろんな場面で、やっぱりこうやってお話をする中で言っているんですけども、いろいろ同じような疑問を持つ方もおられますので、とにかくそこは、我々もできる限りやってるつもりなんですけれども、そこはさらに汗をかいて、やっていきたいと思います。

(参加者)

- ・同じ質問がいろんなところから出るということは、いろんなところに情報が行ってなくて、私たちが今、話を聞いたことをいろんな人に発信しようと思っても、やっぱり限界がある。あらゆるメディアがあると思うんですけど、YouTube だったり、いろいろあると思うんですけど、若い人たち、それは親世代とか、おじいちゃん、おばあちゃんだったら、ケーブルワンのテレビを見たり、新聞を読んだりできる場所なんですけど、私たち次の世代が知る機会って、やっぱ学校とか、こういう機会を作っていただかないとわかんなくて、そういうのを YouTube とかだったら、武雄に住んでるっていう登録を、佐賀県に住んでるっていう登録をしていれば、おすすめに流れてきたりするんですよ、YouTube の動画が。私も佐賀県の YouTube とか、県政の、今年こんなことしますよとか、熱中症警戒アラートなみたいなのが、YouTube のおすすめとか、TikTok の広告とかに流れてきたりするんで、そういうのも、やっぱり、並行して活用していただきたいなって思います。

(市長)

- ・ちょっと発信手段は考えていきたいと思います。

(参加者)

- ・市報とか公共施設に掲示するとか、本当にアナログなことからもいいので、いろんな人に知ってもらって、いろんな人に広く知ってもらおうっていうのと、意見を伝えてもらおうっていうのは、これから強化していつてもらいたいなと思います。

(市長)

- ・すごく皆さんがこの武雄市のことを本当に真剣に考えてくれているっていうのがものすごくよくわかりましたし、私も事前に質問がない中で考えながら話すっていうところで、ひょっとしたらたどたどしかった場面もあるかもしれないですけども、できるだけ皆さんにそこは嘘も何もなく話そうというふうにしたつもりです。本当にいろんな意見をいただきましたし、特に今日は大学の話と文化会館の話でしたけれども、それに限らず、ぜひいろんな場面でやっぱりこう直接話をするっていうのはとても大事なことでと思います。今日言った話は、どういうふうになっていくかっていうのは考えていきたいですし、またなんか

いろんなところでぜひ中学生の皆さん、高校生の皆さんともなんかフランクに話せるような場面を作っていきたいなというふうに思います。それは繰り返しですけど、やっぱりこれかこのまちというか、日本を引っ張っていく、支えていく、その未来の希望となるのは皆さんだからです。あの、ぜひまたあの、いろいろお話教えてください。ありがとうございました。